

野鳥グループ活動報告

両角 英晴

平成 25 年 4 月 21 日（日）講演会に引き続き、プレゼンテーションで野鳥グループの平成 25 年度活動予定などを説明し、希望者を募った。予定した活動内容は以下の項目日程で、野鳥に興味の有る方々に参加して頂き一年間活動できた。

講演会	4 月 28 日	中村浩志氏（信州大学教育学部名誉教授）
写真展	5 月 03 日	ギャラリートーク 吉野俊幸氏（日本写真協会 会員）
調査	9 月 23 日	タカの渡り確認調査 北八ヶ岳茶白山山頂
	5 月 18 日、7 月 7 日、11 月 17 日、1 月 12 日	
		スポットセンサス 博物館周辺 4 回
座学	10 月 13 日	長野県環境保全研究所出前講座 堀田昌伸氏
探鳥会	4 月 14 日	運動公園
	5 月 03 日	尖石縄文公園、竜神池周辺
	12 月 22 日	神長官守矢史料館周辺
	2 月 02 日	諏訪湖、上川周辺
観察会	8 月 03 日	野鳥の会諏訪ツバメのねぐら観察会に参加、学習

本年度は 吉野俊幸写真展 『 八ヶ岳 四季の野鳥 』が開催され、色々な関連イベントが行われたので、野鳥グループの活動には大変良いタイミングだった。

講演会 『 信州の鳥 』 中村 浩志さん（信州大学教育学部名誉教授 特任教授）

中村浩志さんの講演会では、カッコウの托卵、ブッポウソウ、アオバズク、サシバ、ライチョウなどの生態について興味深い話を聞くことが出来た。

写真展 ギャラリートーク 吉野 俊幸さん（日本写真家協会 会員）

吉野俊幸さんの写真展ギャラリートークでは、1 枚ずつの写真に関する撮影の体験や生態の話を、目と耳で楽しんだ。

探鳥会 『 訪れた夏鳥たち 』 尖石史跡公園・竜神池周辺 両角 英晴

尖石史跡公園と竜神池周辺の探鳥会では、全体的に数は少ないものの 35 種の野鳥が確認できた。

以上が開催され、研究員の学習の場が作られた。

◎ 探鳥会

探鳥会を年間で 4 回計画し、地元の季節、環境、場所の違いによる野鳥の生態をポイントに行なった。この探鳥会は 15 年以上も続けて行なっている。市民の皆さんに身近な環境の中で、野鳥を見て知って頂きたいと開催しているが、市民研究員の方もこの事業に携わる事が出来れば良いと思う。 添付別表「探鳥会出現鳥リスト」

探鳥会 運動公園の渡り前の冬鳥と留鳥、夏鳥

4月14日には市街地に近い運動公園で観察した。移動を前にした冬鳥では、ヒレンジャク、シロハラ、ツグミが、渡って来たばかりの夏鳥はツバメ、コムクドリ、クロツグミが居た。多くの留鳥も繁殖準備を始めていた。ここ数年減少気味だったゴジュウカラが多く見え、ウソも近くで見た。29種の確認が出来た。

探鳥会 尖石縄文考古館・竜神池周辺の夏鳥

5月3日は早朝より尖石縄文考古館の駐車場からスタートして青少年自然の森への林縁部を進み、史跡公園の草地へ廻った。クロツグミ、サンショウクイ、イカルなどがさえぎり姿も良く見せてくれた。堰沿いを竜神池へ進み池東側の木道散策路内に、そこではキビタキ、オオルリ、ノジコ、アオジなどが居て全部では35種の姿や声が確認できた。スコープでも確認出来た鳥も数多く、皆さんに喜んで頂いた。まだ北へ帰る準備中の冬鳥はマガモ・シメ・カシラダカがいた。

探鳥会 神長官守矢史料館周辺の冬鳥

12月22日は神長官守矢史料館周辺の農耕地、人家廻り、林縁部で寒い冬を過ごす冬鳥を観察した。野鳥が減った情報の多く聞かれる最近、出現数の減少は驚くべきものだった。

冬をこの地で過ごすはずの冬鳥ツグミ・カシラダカ・ジョウビタキ・ベニマシコ・シメなどは例年に比べても少ない数だった。亜高山で夏を過ぎたルリビタキ・カヤクグリ・ウソは今回見る事が出来なかった。留鳥ではヒヨドリ・ホオジロ・カワラヒワ・シジュウカラはあちこちで見たが、アオジ・モズ・ヤマガラ・アカゲラなど常連の姿は無かった。下見の時見かけたオオタカは出なかったがノスリが雄姿を見せた。今年の29種より減少し23種が確認できた。

探鳥会 上川、諏訪湖周辺の冬の水鳥たち

年が替った2月2日 諏訪市すわっこランドへ集合し水辺の鳥観察を行なった。開始前に上川河口沖で水上にいたオオワシ「グル」(連続15年、毎年諏訪湖へ越冬の為飛来)は観られなかった。雨のため先に諏訪湖ハイツで開催の初飛来から40年経った記念の諏訪湖のコハクチョウ写真展を観てから、横河川河口でコハクチョウやカモを観察した。100羽を超えるコハクチョウの中に1羽のアメリカコハクチョウが居り識別を学んだ。カモの識別も知って頂いた。上川にはカモ類やノスリなどが居た。悪天候だったが28種が確認できた。

◎ スポットセンサス

環境省自然環境局生物多様性センター・(財)日本野鳥の会・NPO法人バードリサーチ のモニタリングサイト1000 鳥類調査の方法を利用して、八ヶ岳総合博物館周辺の鳥類生息調査を行いました。 添付別表「2013 センサス集計」

鳥の種と数のしらべかた

博物館から上川、柳川の合流まで1kmのコースを決め、5つの定点(A~Eをおよそ250mおき)を設定する。

- ・1日だけの調査では、渡りの時期の違いによって記録できない種が出てくるため、調査を2日に分けて行う。
繁殖期・・・さえぎりがさかんな繁殖の前期に1日最盛期1日の計2日
越冬期・・・冬鳥が揃ってから1日、2週間以上経ってから1日の計2日
- ・1日あたり各定点2回調査する。
- ・AよりEまで各定点で10分間の調査をします。E地点終了後、15分間隔をあけて再びE地点から調査する。

2013年 八ヶ岳総合博物館 探鳥会出現リスト

場 所	茅野市 運動公園	茅野市 尖石・竜神池	茅野市 神長官守矢史料館	茅野市 上川 諏訪、岡谷市諏訪湖	
月	4月	5月	12月	14年 2月	
日	14日	3日	22日	2日	
鳥 名					
キジ	○		○		1
コハクチョウ				○	2
アメリカコハクチョウ				○	3
オシドリ				○	4
オカヨシガモ				○	5
ヒドリガモ				○	6
マガモ	○	○		○	7
カルガモ	○	○	○	○	8
オナガガモ				○	9
ホシハジロ				○	0
キンクロハジロ				○	11
ホオジロガモ				○	2
ミコアイサ				○	3
カワアイサ				○	4
カイツブリ				○	5
カンムリカイツブリ				○	6
キジバト	○	○	○	○	7
アオサギ	○	○		○	8
オオバン				○	9
トビ		○		○	20
オオワシ				○	1
ノスリ			○	○	2
コゲラ	○	○	○		3
オオアカゲラ					4
アカゲラ	○	○			5
アオゲラ			○		6
サンショウクイ		○			7
モズ	○	○		○	8
カケス		○			9
ハシボソガラス	○		○	○	30
ハシブトガラス		○	○	○	1
ヤマガラ	○				2
ヒガラ		○			3
シジュウカラ	○	○	○		4
ツバメ	○				5
ヒヨドリ	○	○	○		6
ウグイス		○			7
エナガ	○	○	○		8
センダイムシクイ		○			9
メジロ	○	○			40
ヒレンジャク	○				1
ゴジュウカラ	○	○			2
ムクドリ			○	○	3
コムクドリ	○	○			4
クロツグミ	○	○			5
シロハラ	○				6
アカハラ		○			7
ツグミ	○		○	○	8
ジョウビタキ			○		9
エゾビタキ		○			50
コサメビタキ		○			1
キビタキ		○			2
オオルリ		○			3
スズメ	○		○	○	4
キセキレイ	○	○			5
ハクセキレイ	○	○	○	○	6
セグロセキレイ	○		○		7
カワラヒワ	○	○	○		8
ベニマシコ			○		9
ウソ	○				60
シメ	○	○	○		1
イカル		○	○		2
ホオジロ	○	○	○		3
カシラダカ		○	○		4
ノジコ		○			5
アオジ		○			6
確認種数	29種	35種 42	23種	28種	66種

平成 25 年度 鳥の種と数の調査 記録用紙 集計

調査コース名：総合博物館周辺（下古田・柳川） 調査者 市民研究員野鳥グループ

調査日時 9時より	2013.5.18		2013・7・7		2013・11・17		2014・1・12		年間総合計		
	①・②回目 総合計		③・④回目 総合計		⑤・⑥回目 総合計		⑦・⑧回目 総合計				
種名	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計			特記事項
キジ	6	10							6	10	
カルガモ	3	3							3	3	
カワアイサ							1	1	1	1	冬鳥
キジバト			2	2			2	3	4	5	
アオサギ	3	3	1	1					4	4	
カッコウ			3	7					3	7	夏鳥
トビ	1	1			3	3			4	4	
ノスリ	1	1	3	4					4	5	
コゲラ	1	1							1	1	
チョウゲンボウ	1	1							1	1	
モズ	14	34	14	20	7	10	4	7	39	71	
ハシボソガラス	3	5	2	3	7	13	2	3	14	24	
ハシブトガラス	4	6	8	14	1	5	5	6	18	31	
カケス					1	1	1	4	2	5	
シジュウカラ	3	7	2	2	5	5	7	16	17	30	
ツバメ	20	41	21	46					41	87	夏鳥
アカゲラ			1	1			1	1	2	2	
ヒヨドリ	11	25	21	58	21	43	16	26	69	152	
ウグイス	3	9	10	26					13	35	
オオヨシキリ	24	84	17	58					41	142	夏鳥
ムクドリ	4	8	1	1	1	2	52	56	58	67	
コムクドリ	13	22	7	14					20	36	夏鳥
カワガラス			1	1	5	18	9	23	15	42	
キビタキ	2	2							2	2	夏鳥
ジョウビタキ					1	1	1	1	2	2	冬鳥
ツグミ					2	2	1	1	3	3	冬鳥
スズメ	1	1			213	378	66	124	280	503	
キセキレイ	7	9	1	1	1	2	2	2	11	14	
ハクセキレイ	4	6	1	1	4	5	1	1	10	13	
セグロセキレイ	2	3			3	3	6	18	11	24	
カワラヒワ	2	2	2	2	20	23	10	10	34	37	
イカル							1	1	1	1	
ホオジロ					1	1	33	86	34	87	
カシラダカ							26	86	26	86	冬鳥
トビ 50 <					4	11	1	1	5	12	
ヒヨドリ 50 <					1	1			1	1	
ハシボソガラス 50 <							1	1	1	1	
ハシブトガラス 50					1	1	2	2	3	3	

・2分ごとに、確認した種、記録方法、個体数を記録します。定点から半径50mの範囲とそれ以遠にわけて記録する。

以上の方法にて5月18日、7月7日、11月17日、1月12日の4回実施した。

確認出来た野鳥は34種だった。夏鳥はツバメ、オオヨシキリ、コムクドリ、キビタキ、カッコウの5種、冬鳥はカワアイサ、ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカの4種だった。繁殖期には見なかったスズメが冬には大きな群れで居た。いつでも多くの確認ができたのはヒヨドリである。又5年後にはどう変化するのか解らない。

◎ 観察会開催・参加

8月3日 野鳥の会諏訪のツバメのねぐら観察会に参加した。午後6時40分過ぎ頃から観察地だった、諏訪インター入口の広瀬橋の上空には、ツバメの群れが飛び始め、その数はどんどん増えていった。7時頃には上空がツバメでいっぱい、徐々に橋の上流のヨシ原へ止まっていった。細いヨシにはツバメがいっぱいだった。

9月23日 北八ヶ岳茶臼山でタカの渡り調査を行なった。麦草峠より調査地点の茶臼山山頂まで針葉樹林帯をミニ登山、5時間ほど観察したが、確認は出来なかった。合間には縞枯山の様子も学習して総合学習が出来た。雲の晴れ間には蓼科山から横岳、縞枯山がよく見え、南八ヶ岳も少しの時間姿を見せた。当日佐久側は雨だった。

◎ 出前講座

10月13日 「鳥類の生態と保全」 県環境保全研究所堀田昌伸氏の講演会が研究所出前講座を利用し行われた。県が行っている様々な調査研究が紹介され、それぞれの生態を話され聴講した。

感覚でない実数のデータが調査により作成できたので、今後の調査で比較検討が出来る、さらに場所などを替え実績が蓄積される事が一つの目標点である。

グループ参加者

牛山 志穂	大塚 敏子	小林 喜久一	松澤 勝成	小林 美里
牛山 好友	伊藤 美穂子	樫平 隆史		